

アオジ

Emberiza spodocephala

ホオジロ科・夏鳥

名前の由来

古くはホオジロ科の鳥を“しとと”と呼び、その中で体が緑色のアオジを“あをじとと”と区別するようになった。後にこれが簡略化されてアオジになった。漢字名：青鷓



アオジ（オス）

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）16cm。黄色い腹をしたスズメよりも少し大きい鳥。

オスの頭と顔は灰色っぽい緑色で、くちばしに近いところは黒みが強い。背は緑灰色から腰に向かって茶褐色になる。翼は背腰と同じ色で、列に並んだ黒い模様があり、白っぽい帯が2つある。体の下面は緑がかった黄色で、脇に灰黒色の列に並んだ模様がある。

メスはオスより色が薄い。目の上に太い眉のように黄色の模様がある。

声：繁殖期には木の梢や枝先にとまって「チョッチーチョチリリチリリ」と澄んだ声で鳴く。比較的ゆっくりとした鳴き方。「ジリリリ」という少し濁った声をつけることも多い。地鳴き（さえずりではない、普段の声）は「チッ」と一声。

歩き方：スズメのように両足をそろえて飛びはねながら移動する。

類似種と区別点：ノジコ（北海道には分布しない）。

ノジコは下面が硫黄色で目の周囲が白い。



アオジのオス(上)とメス(下左)。オスに比べてメスの顔は、色が薄く柔らかな感じ



生息環境・分布

比較的乾いた明るい林にすみ、疎林で藪が多いところ、林縁などを好む。十勝では夏鳥。

分布：ユーラシア大陸東部の、バイカル湖からウスリー地方を経て日本列島、中国中央部に分布する。

日本では本州中部以北、北海道で繁殖し、冬は本州南部、四国、九州から台湾、中国南部で過ごす。

北海道には4月中旬に渡来し、海岸部から山地までの明るい林や低木林で普通に繁殖する。

十勝には、主に夏鳥として4月中旬に渡来。河畔林や平地

の林に多数生息、繁殖する。



4月、藪の縁にとまるアオジ。背を向けられるとわかりにくい

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
十勝出現期				繁殖									
本州西南部以南 (越冬期)	越冬									越冬			

食性・他生物との関わり

地上を両足で飛びはねながら移動し、タデ科・イネ科など植物の種子、ズミ・イボタノキなどの果実をついばむ。夏には地上にいる昆虫の成虫、幼虫も食べる。捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。オスはなわばり性が強く、盛んにさえずり、つがいとなってもなわばりを保つ。巣作りはメスのみが行い、地上1～2mくらいの藪の中の枝の又上に乗せるように作る(→興味深い話の項参照)。巣はイネ科植物の茎や葉でお椀型の巣を作る。産卵数は3～6個、メスだけが卵を抱き、約12日でヒナがかえる。オスメス共同でヒナに給餌をし、9～14日で巣立つという。



アオジの巣は藪の比較的低い枝などに作られる(上)。卵は4個くらい(下)

興味深い話

- 標識調査で、8年6ヶ月の生存が確認されている。
- 4月中旬から6月にかけて、十勝地方の草原から河畔林や郊外の樹林、市街地の樹林などあちこちでよくさえずっているお腹の黄色が目立つ鳥である。
- 春に渡ってきた当初のオスは2～4羽の小さな群れで過ごし、地上で対立行動をとるようになる。その後次第に離ればなれになって盛んにさえずってなわばりを作る。
- 地上や地上から1～2mくらいまでの藪の中に巣を作るといわれているが、帯広畜産大学周辺で見つけられた巣は全て地上だった(藤巻、私信)。(→繁殖生態の項参照)
- オスを失ったメスの巣で、別のオスとそのヒナを養った、いわば「養父」の例があるという。
- 北海道や東北地方北部では平地から山地まで広く分布するが、それ以南での分布は山地に限られ「高原の鳥」とされるという。

- 越冬期にも群れることはない。
- 行動圏は10,000㎡くらい、なわばりは5,000㎡くらいだという。
- 十勝地方のアイヌ語名は不明。



さえずるアオジのオス。なわばりは強い

配慮事項

木、藪がないと繁殖できない。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「続野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1976
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I」清棲幸保、講談社 1978

須山才二 (1970) アオジ *Emberiza spodocephala* (1970) . *Emberiza*, 3 : 12-16.

★藤巻裕蔵：帯広畜産大学名誉教授

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥水辺)
類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ